

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 講師

氏名 鴨下 真紀

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

動物繁殖学：動物応用科学科の必修科目であり、動物の繁殖という生命現象の始まりの基礎を学ぶ学問である。生物学の基礎的な知識から専門的な繁殖学の理解までの橋渡しができるよう、生物基礎用語の復習や前回の授業の振り返りを行うことで学生の理解の向上に努めた。また、動物繁殖学を学ぶことで将来どのような職業・分野で活躍できるか紹介し、本分野を学ぶモチベーション向上に努めた。

動物分子生殖科学：動物繁殖学からさらに発展して、繁殖・生殖学について詳細な分子メカニズムまで学ぶ重要な学問である。教科書よりさらに発展した内容として、最新の知見や技術を紹介し、より発展的な内容が理解できるように授業に努めた。さらに、授業内容に関連する最新のニュースを紹介することで実際に学ぶ内容がどのように社会に実装されているか、その技術の問題点やリスクにも言及し、学生自身が社会問題について考えるきっかけを提供することに取り組んだ。

動物受精卵移植論：繁殖学についての基礎をベースとし、より応用的な内容にまで踏み込む重要な学問である。家畜人工授精師や胚培養士、遺伝子改変動物作製など、実際の現場で使用されている技術を中心に紹介することで、学生が理論と実践を結びつけられるように努めた。

動物生殖制御論：繁殖学についてさらに発展的な内容を学ぶ重要な学問である。教科書を超えて最新の論文や技術を紹介し、より詳細なメカニズムの理解ができるように努めた。さらに、今後この学問がどのように発展する可能性があるかについても考えられるように、最新のニュースや異分野との融合についても紹介し、学生の学びのモチベーション向上に努めた。

動物繁殖学実習・家畜人工授精特別実習：繁殖学の基礎から応用まで、授業内容と関連した技術の習得ができるよう努めた。実習を通して、生命が誕生するプロセスの理解、動物種ごとの違いについての理解が深まるように実習を行った。また、学生の積極的な参加を促すため、本学門の畜産や不妊治療分野への貢献についても解説した。

専門ゼミ・科学の伝達・卒業論文：最新の文献紹介や学生自身の研究進捗状況をプレゼンテーションしてもらうことにより、双方向授業となるように努めた。また、学生同士での活発な質疑応答を促し、主体性を身に付けられるように取り組んでいる。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
動物繁殖学	動物応用科学科	必修	2	146
動物分子生殖科学	動物応用科学科	選択	3	99
動物受精卵移植論	動物応用科学科	選択	3	93
動物生殖制御論	動物応用科学科	選択	4	55
動物繁殖学実習	動物応用科学科	選択	3	80
家畜人工授精特別実習	動物応用科学科	選択	3	45
専門ゼミ	動物応用科学科	必修	3	4
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	2
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	2
サイエンスリテラシーII	動物応用科学科	必修	1	139
動物生命科学実習	動物応用科学科	必修	1	140

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

私の教育理念は、大学での学び・研究が社会とどのように結び付いているかを学生に実感させることである。そのため、授業では理論や知識の解説にとどまらず、社会における具体的な応用例や身近な話題と関連付けることで、学習の意義を明確に示すことを心がけている。また、学習意欲の向上を図るため、リアルタイムアンケートツール等を活用し、理解度や関心についてのフィードバックを得ながら、学生の関心を引き出す双方向性のある授業となるよう工夫を重ねている。これらの取り組みを通じて、大学で得た知識をどのように社会に還元するかを考え、主体的に行動し社会で活躍できる人材の育成を目指している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

教育理念を実現するため、授業では学問・研究が社会とどのように結び付いているかを意識させる教育を重視している。具体的には、授業内容に関連した最新のニュースや社会的動向を取り上げ、その背景や科学的根拠を解説することで、学修内容が現実社会で果たしている役割や意義を理解できるよう工夫している。これにより、授業で得た知識が社会の課題と密接に関わっていることを実感させたいと考えている。

また、生命の誕生に関わる分野を扱う特性上、技術の発展が社会に与える影響は大きく、倫理的・技術的リスクも多い。そのため、高学年向けの授業では知識の習得にとどまらず、新たな技術の導入や活用の是非について、多様な立場や価値観を踏まえて考えられるよう、倫理的課題に関する問題提起を行っている。

さらに、学生の理解度や考えを把握し、授業改善につなげるため、「質問・感想への回答」や「リアルタイムアンケートツール」を活用した双方向性のある授業を実践している。学生の反応を授業に取り入れることで、関心を高めるとともに、主体的に思考し発言する姿勢を育てたいと考えている。これらの取り組みを通じて、将来社会において自ら課題を見出し、考え、行動できる人材の育成を目指している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

「講義への質問・感想」は次回授業で必ず解説することやスマートフォンを使用した「アンケートツール」を活用し学生の考えやクイズへの回答などをリアルタイムで収集することで、積極的な授業への参加を促している。

(2) ICTの教育活用

有

上記のアンケートツールの活用のほか、Azamoodleへの授業資料や講義録画のアップロードを行い、復習に役立つように試みている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

学生の興味を促すような最新のニュースと授業内容をリンクさせて講義・実習を行うことで、ただ知識を覚えるという受動的な授業にならないように心がけている。また、実習についてはなるべく多くの学生が主体的に手を動かせるように内容を考えている。

(2) 学生の理解度の把握

B

毎回の授業への質問・感想やアンケート、クイズから授業の理解度の把握に努めている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義資料や録画のアップロードを行い、復習できるようにしている。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

毎回の授業への質問・感想を次の授業の冒頭で回答・解説している。

(5) 双方向授業への工夫

A

毎回の授業への質問・感想やアンケート、クイズを行い学生の反応をみて解説するようにしている。

5. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

低学年では試験前にまとめをAzamoodleに掲示するなどしているが、今後は高学年でも同様に取り組みたい。また、リアルタイムアンケートツールの活用は好評な一方、使用しているツールの関係上、受講者の多い講義では使用するのが難しい。これについては代替となる方法を模索する。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

講義の感想に、前回授業の振り返りや基本的な用語の復習がその日の内容理解に役立ったとの声が一定数あった。また、講義の感想・質問への回答・解説については他の学生の意見も見られて勉強になるとの意見があった。

6. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

FD研修に参加し、どのように自分の授業に取り入れるかを学んだ。

7. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

短期目標として、学生の学習成果向上のため授業評価やリアルタイムアンケート等から得られるフィードバックを分析し、授業の内容及び方法の改善を継続したい。低学年で実施している復習資料の提示を高学年においても行い、受講者数の多い講義においても双方向性を確保できる手法を検討する。これらの取組を通じて、学習内容と社会とのつながりをより明確にし、学生が自ら考え行動する主体的な学びを促進することを長期目標とする。

8. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年2月

教育の責任：シラバス、配布資料、録画

教育の理念：配布資料、録画

教育の方法：配布資料、録画、講義への質問・感想

教育方法の改善・向上を図る取組：配布資料、録画、講義への質問・感想

学生の学修成果向上を図る取組：配布資料、録画、講義への質問・感想

指導力向上のための取組（FD研修参加状況）：FDプログラムへの参加記録

今後の目標：配布資料、録画、講義への質問・感想